

令和5年度 学校自己評価システムシート (県立川口東高等学校)

目指す学校像	生徒一人一人が主体的・対話的で深い学びを実感でき、全教職員が地域と協働し生徒の「より良く生きる力」を育む学校
--------	--

重点目標	1 確かな学力を育成し、生徒一人一人の個性と能力を伸長する。 2 3年間を見通したキャリア教育及び進路指導計画に基づき、生徒一人一人の進路希望を実現する。 3 「時を守り、場を清め、礼を正す」を生徒指導の指針とし、生徒とのコミュニケーションを大切にして適切な生徒指導を行うとともに、特別活動等の活性化に取り組む。 4 保護者・中学校・地域社会との連携を密にし、地域に根ざした開かれた学校づくりを推進する。
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	名
	生徒	名
	事務局(教職員)	名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価							
年度目標				年度評価(2月1日現在)			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	
1	【現状】 ○生徒は授業に落ち着いて取り組み進路実現に向けて努力している。一方で学校生活に不安を抱えてい心身の不調を訴える生徒が増加傾向にある。 ○ICTを活用して生徒の理解度を高めるための授業改善を進めている。 【課題】 ○安心安全な環境の中で、生徒が自ら学習に向かう力の育成とともに、自己肯定感を育む必要がある。 ○これまでの『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けての実践を生かし、個別最適学びと協働的な学びの一体的な充実に向け授業環境の整備や授業改善を推進していくことが課題である。	○学校生活における満足度の向上 ○教員による『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善及び学習環境の整備	①学校生活の様々な場面において個々の生徒が活躍できる場を提供し、協働的に目標を達成できる学びの場を増やす。 ②教科・学年と連携し授業の予習・復習の徹底や、資格試験への取り組みを促す。 ③授業改善研究チームを中心に、タブレットや図書館の活用し生徒の「主体的・対話的で深い学び」充実を図り、各教科会においてその内容を共有する。 ④公開授業、授業見学週間、研究協議による校内研修を充実させ、教科会を活性化させる。	①生徒へアンケートにおける学校生活(友人関係)の満足度を昨年度と比較する。 ②授業アンケートにおける「授業への取り組み」、「家庭学習」の項目を前年度と比較する。 ③授業の分かりやすさなどについて肯定的に答えた生徒の割合を昨年度と比較する。 ④協調学習を実施した授業の回数が昨年度(30回)より増加したか。			
2	【現状】 ○進路指導部と各学年が連携して、生徒一人一人の進路希望の実現を目指した、3年間を見通した系統的な進路指導を行っている。大学・短大進学、専門学校進学はそれぞれ約51%、37%であり、就職は10%弱である。 【課題】 ○大学進学では、総合型選抜受験者が増えるなど入試制度の多様化、複雑化が進んでいる。計画的な指導を行うことで、生徒が高い志を抱くように、進路意識の向上を図る必要がある。 ○進路指導の実績が蓄積・共有できていない部分がある点が課題である。	○効果的な進路指導を行うための教員研修会や環境整備 ○主体的に自らの進路実現に向け活動する生徒の育成	①校内研修の実施・校外研修の周知を通し、教員の指導力向上を図る。 ②面談の計画的な実施。面談週間の設定。個別指導の充実。 ③進路行事の学年間での共有を図り、次年度に向けて改善点の具体化を図る。 ④大学や専門学校等の進路に関する最新情報の提供や担任等との面談を通して、生徒の卒業後の進路への意欲・意識を高める。 ⑤定期考査や実力テストの振り返りを行うことで、生徒一人一人の課題を明確にする。	①校内研修会への参加割合及び校外研究会の実施回数 ②個別面談の実施状況 ③各学年の進路行事等の実績を蓄積し、進路指導部全体で共有化できたか。			
3	【生徒指導の現状】 ○交通安全マナーに関する苦情やSNSへの不適切な書き込み等によるネットトラブルの件数は横ばい状態である。服装、頭髮等全校統一した整容指導を行うことで、健全な教育環境を維持できている。 【生徒指導の課題】 ○学校をより良くするためには全ての教員の協力を得て学校全体で生徒指導にあたる必要がある。重点課題は交通マナー向上とネットトラブル防止の2点である。	○遅刻数の減少、問題行動、交通事故及び交通マナーに関する苦情件数の減少、基本的な生活習慣の更なる確立 ○生徒指導における負担が一部の教員のみにならないように配慮し、協力を求めていく。	①年間を通して交通ルール遵守及びマナーの改善を行う。登下校時の交通指導致や働きかけ協力を全教員に呼びかけ、講習会の機会を増やし、生徒の意識向上を図る。また、警察やPTAとも連携する。 ②ネットモラル向上・交通安全マナーの向上にむけて専門家による講演会を利用し生徒への啓発活動を行う。 ③登校指導や巡回指導、整容指導など、生徒指導部と各学年が連携し、学校全体としての指導体制をつくる。	①交通事故及び交通マナーに関する苦情の件数、問題行動件数を昨年度に比べ減らすことが出来たか。 ②スマートフォン等におけるトラブルの件数を昨年度に比べ減らすことが出来たか。 ③ネットモラル向上・交通安全マナーの向上にむけて専門家による講演会を利用し生徒への啓発活動を行う。 ④生徒指導部会で各学年の指導の体制や課題を毎回確認できたか、具体的な改善があったか。			
4	【特別活動の現状】 ○1学年は8割近くの生徒が部活動に加入しているなど、特別活動に前向きにかかわろうとする生徒は増加傾向にある。一方で自分に自信のない生徒は、それらの活動について関心を持っていない状態である。 【特別活動の課題】 ○コロナ禍で縮小傾向にある委員会活動を活性化できるよう教員が適切な援助を行うことで、生徒が主体的に学校行事や部活動を盛り上げようとする雰囲気醸成させる必要がある。	○生徒が主体的に学校行事に参加し、活躍・成長する場を提供する。	①学校行事などで各委員会の生徒が主体的に携わる機会を設ける。 ②生徒総会や部長会において、生徒主体で学校生活に関するアイデアを出し合っていく。 ③新入生歓迎会・部活動見学・部活動勧誘など、生徒会役員と各部活動が連携し、生徒たちのアイデアあふれる取り組みとなるように実施する。	①生徒へアンケートにおける学校生活(部活動・イベント)の満足度を昨年度と比較する。 ②学校行事などの生徒アンケートの結果において、「積極的に関わった」「企画が成功した」「満足した」などの回答が全生徒の5割を超えたか。 ③部活動紹介について、生徒会役員や各部活動が連携しながら企画することで、新入生の部活動加入率を昨年度と比較する。			
5	【現状】 ○R5年度入試では定員を満たすことができたが、本校を第一志望として選ばれる学校になれていない現状があるようである。 【課題】 ○HPや学校行事などを通じて、川口東高校の魅力を保護者・中学校・地域社会に発信できるようにする。	○入学者選抜における実質倍率の維持 ○本校の魅力についての情報発信及び地域社会との連携	①学校HPを中学生やその保護者の視点で随時更新する。また、広報誌や学校新聞を地域で配布するなど広報活動を積極的・戦略的に行う。 ②学校説明会の内容等、工夫と改善を行う。また個別相談会を充実させ、きめ細かい対応をする。 ③地域の進学フェアに積極的に参加し、資料提供だけでなく、本校のPRをする。 ④近隣の自治会と連携し、生徒が地域社会と触れ合う機会を設定する。	①3月卒業予定者進路希望状況調査の10月1日現在で「1.1倍」以上、令和6年度入学者選抜において実質倍率「1.1倍」以上を達成する。 ②学校説明会の参加者アンケートで満足度90%以上を達成できたか。 ③外部団体主催の進学フェア等に参加できたか。 ④近隣の自治会と連携し本校の魅力を発信できたか。			

学校関係者評価	
実施日	令和 年 月 日
学校関係者からの意見・要望・評価等	